

リンドウ花弁の高温障害に対する耐性の品種間差

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

1 部門名

花き - リンドウ - 生理障害

2 担当者

矢島 豊・宗方宏之

3 要旨

リンドウは、花蕾発達期間の高温多照環境によって花弁に着色不良症状(高温障害)が生じる場合があり、発生程度には品種間差があることが知られている。そこで、福島県内で育成、栽培されている 8~9 月に開花する主な品種について、高温障害への耐性の差を明らかにした。

- (1) 8~9 月の開花品種における高温障害の発生程度および品種間差を表 1 に示した。夏季の気温が比較的高い郡山市内で育成された福島県育成品種は、高温障害への耐性が高い傾向がみられた。
- (2) 調査地の郡山市では、2012 年 7 月は平均気温が平年比 +0.8 、8 月は +1.8 となり、高温障害が発生しやすい状況下における発症状況となる。

表1 高温障害の品種間差(2012年、郡山市)

供試品種 ^z	障害指数 ^w (0-100)	障害花茎 発生率 (%)	障害花発生率(%)		採花盛期 (月/日)
			全花茎 当たり	障害花茎 当たり	
ふくしましおん ^y	4.0	12.0	2.6	9.7	8/13
尾瀬の輝 ^y	16.7	38.0	12.1	30.0	8/15
ふくしまほのか ^x	8.0	22.0	6.5	29.4	9/5
尾瀬の愛 ^x	37.3	64.0	32.9	48.9	9/10
かせん彼岸 ^x	23.3	58.0	22.1	39.7	9/16

^z開花茎を10株から1本ずつ概ね5日毎に採取し、調査標本(n=50)とした。

^yふくしましおん、尾瀬の輝は、7/31,8/5,10,15,20に採花した。

^xふくしまほのか、尾瀬の愛、かせん彼岸は、8/25,31,9/5,10,15に採花した。

^w障害指数=(障害程度^v*発生花茎数)/(最大障害程度3* 総花茎数)*100

^v3(重度)=着色不良が花弁面積の3分の1以上、2(中度)=3分の1未満、

1(軽度)=わずかに認められる、0(無)=発生なし

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 23 年度 ~ 24 年度
- (2) 研究課題名 福島の顔となるリンドウの高収益を実現する安定生産技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成 24 年度センター試験成績概要